

佐賀県県土整備部 各土木事務所

若手技術者 4 名

建設業界の魅力
公共事業と技術系職員の業務など

「建設業界の魅力」をテーマに、県内土木事務所から若手技術者 4 人が登壇。



公共事業と技術系職員の業務内容について語った。
三根達也主査（佐賀土木事務所・街路公園課）は現在取り組んでいる佐賀城公園の事業を紹介した。これまでに吉野ヶ里公園や森林公園の整備に携わった経験から、公園に関する事業と、技術者として日々感じていることを話した。

小野盛一主任主査（東部土木事務所・工務第一課）は、大学卒業後の 5 年間で、民間の建設会社で大規模公共事業に関わった経験を

介。発注側・受注側それぞれの立場から業界について説明した。

2021 年に入庁した田中陸人技士（唐津土木事務所・工務課）はこの 1 年間に体験したことを振り返り、就職活動などを控えた学生らに技術系職員の魅力とやりがいを話した。

西村仁志主任主査（伊万里土木事務所・工務課）は 10 年の入庁以来、様々な分野の業務に携わってきた経験から考えた、これからの技術系職員のあり方について講演した。

聴講席には学生の姿が多く見られ、公共事業と技術系職員について知るよい機会になったようだ。

みんなのくらしを守るダム
県独自のダム運用について

城原川ダム等対策室で県営ダムの管理を担当した県土整備部道路課の三瀬志帆美氏が「みんなのくらしを守るダム」経験したこの



三瀬氏は、全国的な水害の激甚化を踏まえて、事前放流など既存ダムを最大限活用し、洪水被害を軽減させるための取り組みが必要と語る。

しかし、事前放流を効果的に

いうえに、大規模放流設備がないダムがほとんどであった。
事前放流が難しい佐賀県では出水期間中、常に 1 財程度貯水位を低下させておく『期別の貯水位低下運用』を行ったことを説明。予め貯水位を低下させておくことから、小規模放流設備でも実施可能な操作であるとともに、予測困難な降雨においても効果が期待される。

昨年 8 月の豪雨では、全 13 ダムの内 3 ダムで洪水調節容量を超えると予測されていたが、貯水位低下運用の効果などで結果的に容量は超えなかった。

将来展望と研究発表

佐賀大学大学院理工学研究科

溝上哲平さん、大屋貴芸さん

「将来展望と研究発表」をテーマに、佐賀大学大学院理工学研究科理工学専攻都市基盤工学コースの溝上哲平さん、同じく建築環境デザインコースの大屋貴芸さんが自身の研究内容や将来展望について語った。

溝上哲平さん（都市基盤工学コース）

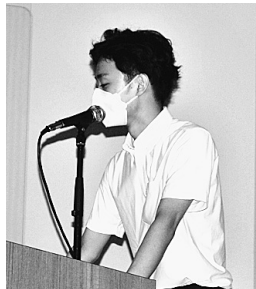
溝上さんは、地域の特性に合った効果的な治水対策の提案を目的に、解析ソフトウェアを用いた過去の水害の再現と、解析結果を踏まえた治水対策の検討を行っている。

六角川を対象に、MIKE11（河川を対象とした水文・水理・水質・土砂解析総合ソフト）を用いて 2019 年 8 月の九州北部豪雨時の河川状況を再現、内水調整池やため池を用いた治水対策の効果検証について発表した。

将来展望について溝上さんは、学んだことを活かして、防災・減災に貢献していきたいと話した。

大屋貴芸さん（建築環境デザインコース）

大屋さんは、歴史的景観の「らしさ」の抽出やデザ



溝上さん



大屋さん

インの差異を分析できる AI システムの構築を目的に、県内 3 つの歴史的町並み景観（肥前浜宿、塩田津、有田内山）を構成する建物とその評価の推定方法を探っている。

今回のフェアでは、伝統的な建物の画像を機械に解析させた際に、機械が注視した部分を建物の特質として抽出する研究について発表した。

大屋さんは、勉強を通じて設計の楽しさを知ったとし、将来は建築設計の道に進みたいと話した。

出展者のコメント（一部抜粋）

遠隔臨場検査監督システム（アテネット）・GIS 情報共有ソフト（ヘックアイ）を紹介／株式会社島内エンジニア

株式会社島内エンジニア（徳富泰信代表取締役・佐賀市）は、「遠隔臨場」に適合した WEB アプリケーションである「アテネット」、複数のドローンやスマートフォンなどからの情報をリアルタイムで地図上に集約し閲覧できる GIS プラットフォームである「ヘックアイ」を紹介した。

同社技術第三課の中川和樹課長は「働き方改革が進む中、今回のフェアでも遠隔臨場には多くの問い合わせをいただいた。今まで使ったことがない方々に対しても十分に説明する時間がとれたと思う。学生には ICT 施工技術の普及など最新の土木について説明をしたが、弊社の商品だけでなく、土木そのものに興味をもってもらえるよう心掛けた」と話した。

小規模溪流向け杭式土石流・流木対策工「アーバンガード」を紹介／株式会社プロテックエンジニアリング

株式会社プロテックエンジニアリング（野村利充代表取締役社長・新潟県）は小規模溪流の土石流・流木対策や、施工現場の安全対策に最適で、工期短縮にも繋がる土石流・流木対策工「アーバンガード」を紹介した。

同社九州支店の若崎雅克支店長は「土石流対策が注目されている中で、多くの来場者に話を聞いていただけた。学生の方にも人命を助けるのに一役買うという点、新技術の開発する技術メーカーという点で興味をもっただけだと思う。佐賀にも事務所があるかという質問もあり、学生の新しい技術への関心の高さを感じるフェアだった」と話した。

再資源化製品「発泡廃ガラス（ミラクルソル）」の環境改善工法を紹介／日本建設技術株式会社

日本建設技術株式会社（原裕代表取締役・唐津市）は建設廃材の板ガラスや容器包装の空き瓶、車のサイド・リアガラスなど、ガラス廃材をリサイクルした多目的環境材料「ミラクルソル」を用いた環境改善工法を紹介した。

同社企画開発戦略本部技術研究所の落合一明課長は「2 年ぶりの開催で、ブースも広くなったが、会場が分かれた影響なのか、来場者が同じ時間に集中した。話を聞きたくても素通りした方がいたと思う。学生も多く、素材の軽さに驚く感想や他の用途について質問を受けた。準備していた資料もほとんど配ってしまった」と話した。